

令和5年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22075	事業名	中学校デリバリー給食実施事業		評価分類	A1	
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他( )					担当部署	
	施策体系	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実		予 算 科 目	会計	01:一般会計	
		基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実			款	10:教育費	
		施策の方向	02:豊かな学びを支える教育環境の充実			項	03:中学校費	
重点プロジェクト	04:「未来へのピラ」プロジェクト		目	01:学校管理費				
事業期間	H 20 年度 ~ R - 年度	主な根拠法令等		-				

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	亀山中学校・中部中学校の生徒が、正しい食生活を身に付け、食育に関する指導の充実を図るとともに、栄養に配慮した食事を提供することとして、平成20年度から実施している。	亀山中学校及び中部中学校の生徒	家庭弁当の持参とデリバリー給食の選択ができる方式を通して、生徒が自らの昼食に関心を示し、食への関わりを持つ機会を与えるとともに、心身の成長が著しい中学生に対し、栄養バランスの考えられた昼食を提供する。	亀山中学校・中部中学校における生徒の昼食を、家庭弁当の持参と給食の調理・予約注文・集金業務等を外部委託するデリバリー給食との選択制とし、各家庭のニーズや生徒の嗜好・栄養摂取を考慮した昼食の提供を実施する。

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		事業計画	○デリバリー方式による給食実施		○デリバリー方式による給食実施		○デリバリー方式による給食実施		○デリバリー方式による給食実施
活動実績 (計画通り実施できたか)	年間178回の実施により、必要な回数の給食を実施することができた。生徒対象のアンケートを実施し、委託業者との打合せと新メニューの取り入れにより、献立内容の改善を図った。		年間181回の実施により、必要な回数の給食を実施することができた。生徒対象のアンケートを実施し、委託業者との打合せと新メニューの取り入れにより、献立内容の改善を図った。						
計画額	事業費	事業費	46,000千円	43,700千円	46,000千円	47,400千円	46,000千円	46,000千円	
		国・県支出金		0千円		0千円			
		地方債		0千円		0千円			
		その他		0千円		0千円			
		一般財源	46,000千円	43,700千円	46,000千円	47,400千円	46,000千円	46,000千円	
決算額	事業費	事業費		42,088千円		47,254千円			
		国・県支出金		0千円		0千円			
		地方債		0千円		0千円			
		その他		0千円		0千円			
		一般財源		42,088千円		47,254千円			
①期間内計画額(R4-7)		184,000千円		②期間外計画額(R8-)		0千円		①+②総計画額 184,000千円	

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	47,400千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	生徒のデリバリー給食満足度	成果	%	計画値	70	70	70	70
				実績値	75	74		
新メニューの取り入れ	新メニュー取り入れ回数	活動	回	計画値	10	10	10	10
				実績値	11	11		
				計画値				
				実績値				

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
A	生徒対象のアンケートにおける肯定的回答(おいしい・どちらかと言えばおいしい)の割合は計画値を上回っている。また、利用者の過半数が、栄養バランスが良いことやメニューを選択できることを良い点としており、生徒自らの昼食への関心を高めつつ、栄養バランスの考えられた昼食を提供することができた。
十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
亀山中学校及び中部中学校の生徒	家庭弁当の持参とデリバリー給食の選択ができる方式を通して、生徒が自らの昼食に関心を示し、食への関りを持つ機会を与えらるとともに、心身の成長が著しい中学生に対し、栄養バランスの考えられた昼食を提供する。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	生徒対象のアンケートにおいて、利用者からは、デザートを増やしてほしいという回答が半数を超え、また、利用していない理由としては、量の多寡や好き嫌いへの対応に関する意見が多かった。一方では、不安定な国際情勢等による物価高騰が続いていることから、こうした要望等への対応について、費用面も考慮しながら検討していく必要がある。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性
	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容
	令和6年度で対応する(した)もの 材料費の物価高騰に対応するため、4月分から保護者負担金額を改定した。生徒対象のアンケートや新メニューの取り入れと併せて、献立内容の改善を行っていく。
	令和7年度以降で対応するもの 中学校全員喫食制給食実施事業の進捗により、令和8年度第2学期から食缶搬入方式による全員喫食制給食に移行する。

【履歴】	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	A		
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

1次評価者	教育委員会事務局 教育総務課 保健給食GL 渡邊 尚也
最終評価者	教育委員会事務局 教育総務課長 麻生 俊哉